

第6回桐生市総合戦略推進委員会ワーキンググループ 議事録

○日 時 令和4年6月28日（火）午後1時30分～午後3時20分

○場 所 c o c o t o m o

○出席者 13名

【委員】10名

委員長：桐生市総合計画審議会 副会長職経験者	新居 理恵
副委員長：社会福祉法人桐生市社会福祉協議会 常務理事	大木 茂雄
委員：一般社団法人きりゅう市民活動推進ネットワーク 理事長	近藤 圭子
NPO法人キッズバレイ 代表理事	星野 麻実
移住者	和崎 拓人
移住者	川堀 奈知
移住者	山本 祐司
地域おこし協力隊	小林 由香
公募市民	山口 典利
公募市民	清水 哲
<欠席者>	
一般社団法人桐生青年会議所 理事長	深澤 佑太

【桐生市】3名

桐生市共創企画部企画課長	西條 敦史
桐生市共創企画部企画課企画戦略担当係長	森下 英明
桐生市共創企画部企画課企画戦略担当	伊藤 美和子

○報道関係 1社

○傍聴者 1名

○会議内容

1 開 会 [開始：午後1時30分]

・事務局から、過半数の委員の出席により会議が成立することを報告。

2 挨拶

・新居委員長から挨拶。

3 議 題

(1) 人口減少対策のあり方について

・意見、質疑応答は以下のとおり。

委員長	前回からまとめに入り、皆様から提案いただいた7つの施策・事業について意見交換をした中で、いくつか再議論となった項目があったので、今回はその項目について再度意見交換をし、提言書に含めるものについて決定したい。 まず資料中の1番目、「移住・定住に関するワンストップ窓口の設置」と「移住・定住に関するポータルサイトの開設」については、事務局と委員で調整の上、皆様に提示するというようになっていたが、事務局から説明をお願いしたい。
-----	--

事務局 (課長)	<p>前回の会議で委員から具体的な提案をいただいた。その内容について、事務局の方で精査した。中にはもう少し突っ込んでできたらといいと思うようなものもあった。その中では、このような窓口を設置することについては特段の問題はない。本来は、実際費用がどのくらいかかるかなど精査したかったが、精査には時間がかかる。今のところ問題はなさそうだとということでご理解いただきたい。</p>
委員長	<p>移住・定住促進に関するワンストップ窓口の設置及びポータルサイトの開設という大きな枠組みの中では特段問題はないと思われるとのことだが、いかがか。</p>
委員	<p>桐生に行きたいとなった時に、身一つでどうしようかということにはならないと思うので、そういうものができたらすごくいいなと思う。あとは、地域の理解を得ながら進めていくことも大切だと思う。</p>
委員長	<p>今いる人たちとどうつなげていくかが肝であると思う。窓口を作って終わりではなくて、その中でどう深めていけるかがすごく大事なのだろうと思う。</p>
委員	<p>そういうセンターができるのはすごくいいなと思っていて、自分がUターンで帰ってきた身としては、住宅や補助金の情報を自分で探すというのが結構大変だったので、それを分かりやすく案内してくれるセンターと、実際にコーディネーターとして移住してきた先輩が案内してくれるのはすごくいいと思うので、是非進めてほしい。</p>
委員	<p>これまで皆が話してきたことを包含したものなので、非常に必要なものだと思う。これから先、日本中で似たようなものができてくる中で、移住を考えている人たちは、最初から桐生に来たいと思って来てくれる人と、複数で迷う人もいると思う。その中で一番重要になって来るのは、まちの魅力もそうだが、担当する人にかかってくると思う。我々を始め、桐生の人々の思いをきちんと理解してくれる方がいいのかなと思う。そのような人が選ばれることを切に願う。</p>
委員長	<p>そのとおりだと思う。窓口自体を作るという一つの大きな目的はあるが、結局対するのは人なので、その部分を、ハートもそうだが、すごく大切に運営をしていってくれる人がいいなというのがここにいる皆の想いだと思う。</p> <p>また、このような事業を先駆けてやっている所もあるが、これからどんどん日本全国で広まっていくのかなという時に来ていると思う。その中で、ワーキングでこれだけ話を始めてまとめられているというところで、桐生が少しリードできているのかなと思うので、それをしっかりどのように軌道に乗せてスタートしていくことが大切だと感じているところである。</p>
委員	<p>昨日、群馬県未来構想フォーラムがあり、県知事が言っていたが、群馬県は移住希望者が多く、全国5位、その中で20～30代が1番多いとのこと。希望者マッチングできればもっと増えると思う。コーディネーターが移住経験者だいいと思うが、年代も考慮し、若い人が1番で中心になってくると思うが、ある程度</p>

	<p>の年代の人も含めながら、バランスよく配置できるといい。群馬県が注目されているちょうど良い時期だと思うので、是非早めに進めてほしい。</p>
委員	<p>以前、群馬県の移住コーディネーターの集まりに何回か参加したことがあり、その時に県内の横のつながりが大事という話をされていて、桐生が合うという人もいれば、例えば、林業がやりたい人であれば支援者の多いみなかみ町が、二拠点生活なら新幹線のある高崎がいいのではないかなど、桐生の窓口ではあるけれども県内の他のコーディネーターと連携を取って、移住希望者にとって一番いい形を提案できるのがいいと思う。</p> <p>また、他のコーディネーターが言っていたが、移住した次の日から生活が始まるので、ゴミはどう出すかとか、回覧板はどうなっているのかとか、そういう生活の情報が入りすごく重要であり、人口を増やすという華やかな部分も大切だが、その先住んだ人がこの環境に慣れるまで相談できる体制がセンターの中にあるといいと思った。</p>
委員	<p>移住して1か月経った頃、いきなり町会費を払ってないと言われ、東京では町会費がなかったのですごく驚いた経験があった。</p>
委員	<p>自治会に紹介できるといい。</p>
委員長	<p>区長や町務員に、世話焼きではないがそういう体制が整えられるといい。市内で引っ越すだけでも地域ごとに自治会の在り方などが違ったりして、市外から来た人は余計驚くと思うので、そういったきめ細やかさもあるといい。</p>
委員	<p>そういうことを考えるならば、コーディネーターは3人くらいとあるが、そういったことに共感できる人がいいと思うので、移住者に是非入ってもらいたい。</p>
委員長	<p>元から住んでいる人は、意外と困っていることが分らなかつたりすると思うので、そういった視点を持った人がいるのが大事だと思う。</p> <p>他に意見がなければ、原案を提出してくださった委員と事務局で話を詰めていくということで大丈夫か。</p>
事務局 (課長)	<p>この案を主軸として提言の内容とするかどうか、また、他の意見については付帯意見として載せるかどうかをご議論いただきたい。</p>
委員長	<p>そのようなことで本日議題を進めてよろしいか。</p>
	<p>一同同意</p>
委員長	<p>それでは、移住・定住に関するワンストップ窓口の開設及びポータルサイトの開設を一点突破の施策として、総合戦略に上げたいと思う。その他の意見については、大きな柱の他に付帯意見として含めるかどうかについて、話を進めていきたいと思う。</p>

	<p>また、事業内容の詳細については、このまま意見がなければ事務局と委員で詰めていただくということでしょうか。</p>
委員	<p>最後はどのくらい具体的に詰めていくのか。</p>
事務局 (課長)	<p>今回のワーキンググループは、提言書を提出するというのが一つの目的である。事業の細かい内容までは載せず、事業の目的・概要が記載される。委員会自体は提言書を受けて終了となるが、市が提言を受けた後で、事業を実施することになれば、細かい内容は、必要に応じて委員長や提言者と調整しながら作っていくことになる。</p>
委員	<p>ワーキンググループの委員の意見が全て同じではなく、また、実際作る中で、違う方向に進んでしまうことがあり得ると思う。例えば、コーディネーターは3人という目安の数字が出ているが、3人がいいのか、それより多い方がいいのか、それとも全てのことを分かっている人がいいのか、それによって予算や場所が変わってくる。もしこれを上げるのなら、どの程度までワーキングの意見を付けるかというのはとても大事なのではと思う。ある程度形を作らないと、市が調整する中で方向性が違ってきてしまうというのはいずれの話だ。</p>
事務局 (課長)	<p>提言書の中にあまり細かいことまで記載してしまうと体裁としてどうかというのと、今後自由が利かなくなる、というのは、皆様の意見を反映しづらくなってしまいますので、提言書はある程度の記載を想定している。しかしながら、今議事録を残しており、事業を実施していくということになれば、当然これまでの議論の内容は重視していくことになる。全てがそのとおりになるかということ、実現性の問題などがあるので、そこは、委員長や委員などと調整していきたいと考えている。</p>
委員	<p>提言書に全て細かく入れるのではなくて、ある程度、こことここは絶対に入れてほしいというのを作っておかないと。どこの会社でもそうだが、役員が意見を出して担当者に任せた時に、担当者が全然違った方向にしてしまうことはよくある。ワーキンググループで半年間やってきて、私達が描いていたものと違うものができる可能性がある。なので、最低ここだけはというものを、議事録ではなくて、意見として水面下で分かっているというのを私の意見である。</p>
事務局 (課長)	<p>当然作る以上は、例えば、委員の提案の中で、起業や移住の一連の支援や民間のコーディネーターの起用が重要部分になってくるので、必要なものだと考えている。今この時点で実施の可否の話はできないが、例えば分かりやすく箇条書きにして皆様の求めることを整理していただき、それをいただけるのであれば、もし提言を受けて実施していくということになれば、それを加味していく必要があると考えている。しかし、どういうものをどういう形にするかというのはまた相談したい。</p> <p>先の話になるが、次回、提言書の形に取りまとめたものを提示する。そこで、</p>

	最低限これは入れてほしいというのがあれば、別刷りで事務局にお渡しいただくという形もできる。委員のおっしゃるとおり、明文化するというのも一つの方法であるので、そのような形を取らせていただきたいと思うが、いかがか。
委員	それでいいと思う。
委員長	それではそのような形で進めたいと思う。 続いて資料中の2番目、「きりゅう暮らし応援事業の利用促進」について、こちら事務局で一旦実績等を整理して提示するということでしたが、説明をお願いしたい。
	事務局説明
委員長	きりゅう暮らし応援事業にも色々な考え方があって、若者や市外からの転入者にターゲットを絞るとか、様々な考え方があると思うが、いかがか。
委員	補助金の加算で矛盾がある。空き家・空き地バンクをやっている中でこの住宅取得応援補助金ができが、昭和56年以前の建物に関しては補助金の対象外である。昭和56年という建築基準法の一つの節目があって、それより古い建物については耐震が取れていないということで、基本的には建替えか耐震の補強工事をしてしまおうということが大前提にあるので、そこに補助金を付けられないという話をずっと市がしている。空き家空き地バンクを取得する方というのは、特に市外の方、お年寄りも含め、予算が300万円以内で住みたいという方がすごく多い。そうすると、市外から離れた所、遠くなってしまうとか、建物が古くなってしまふ。そうすると、この補助の条件に当てはまらないので、できれば引越し代に相当する20万円くらいの補助金は出してあげた方がいいのかなと思って、新しい条件としてできれば検討していただきたいと思う。 不動産業界で聞いた話だが、お年寄りの方が都内から引っ越してきて、不動産屋さんが補助金を使えると言って家を買ったらしいが、その建物が補助金の対象外で補助金がもらえなかったということで、苦情相談があった。不動産屋さんの説明が悪かったというのもあるが、なぜせつかく市で移住定住、空き地空き家バンクをやっているのに私はもらえないのかという話在实际あった。そういうのを考えると、せめて引越し代くらいはということで話をさせてもらった。
委員	同じような事業を桐生市だけではなくて他の市町村もやっていると思う。桐生は結構手厚いという話をいただいたが、特にこういう部分を桐生は手厚くしているという売りがあるといいのかなと思う。例えば、小さいお子さんがいる世帯に対して非常に手厚くするとか、何か特徴を持たせないと、広く誰でもいいが、特にこういう人には有利ですよというのがあるといい。今までの流れでできれば若い人たちに住んでもらいたいというところをイメージしたもので、子ども加算を多少厚くするとか、そういうものがあるといいのかなと思う。 他の市町村と比べて桐生はここが手厚いというのはあるか。

事務局 (課長)	<p>今手元に正確に比較したものはないが、我々も常にインターネットで情報収集している中で、オンラインプレジデントというサイトに当たって、移住の措置が手厚い市町村で桐生市が1位だった。なぜ1位になっているかという、移住してこの住宅補助が最大で200万円もらえるというところが、どうやら他市と比べると最大限もらえる額としては1番大きいという意味で1番だということである。</p> <p>詳細は分からないが、多分そういうところが今のところは一つの特徴になっているのかなとは思う。</p>
委員	200万円をもらった人はいるのか。
事務局 (担当係長)	<p>いる。当然人によって違いはあるので、平均すると90万円とかとう金額にはなるが、人によっては子どもが多くて市外から転入された方というのは、当然金額が高くなるし、逆に高齢の方で、夫婦2人だけで市内に住んで家を建てるような場合には金額が少し下がってしまうようなところはある。</p>
委員	子ども1人につき15万円で、上限が200万円ということであるか。
事務局 (担当係長)	そうである。
委員	<p>資料中の平均額は本当にこれくらいで合っている。市内の人は大体80万円から90万円、市外の方は100万円から120万円というのが一般的である。200万円というのは本当に稀だと思う。</p> <p>ただ、100万円という額が現金で2か月以内に口座に入る。こんな市町村はないと思う。群馬県だけではなくて全国で見てもこの金額もらえるのは桐生市くらいだと思う。群馬県では断トツで一番である。沼田市でもやっているが、50万から60万円だったと思うので、これはすごい事業である。</p> <p>資料を見ると、平成26年度は170件だったが、これは市がアナウンスを全然しなかった。そこで我々がハウスメーカーなどに話をし、それでこれだけである。平成28年に終了するとアナウンスしたので、駆け込みで一気に増えた。その後、市長が公約で継続するということをやったので、安定してこれだけ来ている。300件来ているので、すごい事業だと思う。現実的に、みどり市、笠懸を検討しているお客さんが現金で100万円もらえるということで桐生にした人は沢山いる。あとは、太田から桐生に住んでいるお客さんも多い。今私のお客さんで、20件いるとしたら、そのうちの4件は、太田に通勤して桐生に住んでいるという人である。やはりこれは取っ掛かりとするとすごく大きい。あとは給食費や固定資産税の問題などはあるが、取っ掛りとして非常に素晴らしい事業であると思うので、継続してもらえると有難いと思う。</p>
委員長	もし付帯で付けるとしたら、色々意見を出していただいたような形で、ブラッシュアップを、ターゲットを絞るとか、特色をもっと出すのがいいのかという部分で、見直しを検討していただきたいというような内容になるかなと思う。

事務局 (課長)	<p>色々なご意見をいただく中で、やはりこの制度は、このまま残していった方がいい。ただ、中身については色々見直しが必要という意見だと思う。</p> <p>また、先々素晴らしい定住促進センターができて、移住者がそこでやっている中では、形を変えるということはあると思う。ここで、当然この委員会で出た内容というのは、一つの方法として当然担当課につなげていく。ここで出た意見というのは当然やっていくつもりで市の中で検討していく。</p> <p>ただ、このことを付帯で残すかどうかということはいずれにしてもご議論いただく必要がある。</p>
委員長	<p>今まで話したことは全て企画課を通して各課などに伝わっているのか。</p>
事務局 (課長)	<p>途中途中の意見の中では、よほどタイムリーにお伝えしないといけないということや、予算絡みのことは伝えるが、基本的には伝えていない。あとは、秋に開かれる予定の総合戦略推進委員会では、この案をかけて承認していただくが、その後、今までも翌年度の予算に対して意見をいただいているので、それに合わせて、これももし必要があれば、翌年度予算に反映させるために各課にお伝えしようと考えている。</p> <p>いずれにしてもあと幾つかあるので、後で1つずつ、付帯に残すか残さないかということを議論いただきたい。</p>
委員長	<p>付帯に残すか残さないは、全て出し終わった後で決める形でもよろしいか。それとも、話したところで決めた方が分かりやすいか。</p>
委員	<p>その方がいい。</p>
委員長	<p>ではそのように進める。</p>
事務局 (課長)	<p>いずれにしても、この議論の内容は各課に伝えて、きりゅう暮らし応援事業も常時見直しは進めているところなので、付帯に載るか載らないかによって、見直しをするかしないかわるということは基本ない。毎年何がいいのかというのは見直し、制度自体も止めるという議論も出ていないという現状は踏まえていただきたい。</p>
委員	<p>この2番については、1番に入れ込んでもらえばいいと思っていた。これを単独ではなくて、移住・定住の中でこういう制度がありますよという周知をしてくれば、ワーキンググループとしては十分だと思う。不動産業界で別に要望をしているので。</p>
事務局 (課長)	<p>きりゅう暮らし応援事業の主な意見の中には、制度自体を知らない人も多いと思うので、周知することが重要であるというお話をいただいていた。そういった意味では、今回の移住・定住のお話の中では、あらゆることを発信しようということで、当然この内容の発信というのはこの中に入ると我々は理解している。別</p>

	<p>の項目にしているのは、先ほどお話があったように、内容の見直しというのを毎年しなければいけないと考えており、その中で皆様からのご意見が聞ければというところが当然あったので、いただいたご意見は担当課につないで、見直しの材料にするということになる。1番の内容に包含するというのであれば、今言った内容を伝えるだけでいいのだとすれば、そのような方向でお願いしたい。</p>
委員長	<p>ワンストップ窓口で、こういう補助金があるということを案内してもらうことが組み込まれていけばというところで、付帯意見には含めないということによろしいか。</p>
	<p>一同同意</p>
委員長	<p>次に資料中の5番目、「3歳未満児の保育料無償化」についても、事務局で調査を行い報告するという事になっていたが、説明をお願いしたい。</p>
	<p>事務局説明</p>
委員	<p>役所の人を疑ったら悪いが、きりゅう暮らし応援事業の話もそうだが、見ていると、良いことをやろうとしているが、それをアナウンスしないので知らない人が多い。例えば、市長のトップダウンで政策を実施したけど、市としては、それをやるとお金がかかってしまうので、積極的に周知しないというケースが非常に多い。結構そういうのが、色々なまちで、良いことをやるけど、実際やったら予算が赤字になってしまうのでできないので、知っている人だけでやっていけばいいでしょうと。桐生はやってないかもしれないけど、実際にそういうのがあるかもしれない。</p>
事務局 (課長)	<p>委員のおっしゃることはよく分かる。ただ、今回聞いた所は、多分、これは想像の域であるが、給食費の無償化は全ての人を対象になるので、そういうことはできないと思う。3歳未満児の保育料無償化も、結局同じ保育園の中で、料金を取っている子と取っていない子が出てしまうと、園内で分かっておかしなことになってしまう。申請主義を取っているかもしれないが、多分対象者全員が網にかかっていると思う。</p>
委員	<p>今住んでいる人ではなくて、外から来る人に対してである。同じではなかったら不公平になる。そうではなくて、このまちは良いことをしています。良いことを始めました。だけどそれをあまりアナウンスしないから知らないと思う。そういうことが沢山ある。こういうことをテレビでやったら、絶対人が来ると思う。</p>
事務局 (課長)	<p>おっしゃるとおりである。今回の移住・定住促進センターが出てきたということは、裏を返すと委員のおっしゃることがベースにあるのだと思う。これまでの議論の中で、桐生市は色々なことをやっているが、それが外に伝わっていない。だからこの移住・定住促進センターを作ろうという流れに今なっているのだと思う。</p> <p>3歳児未満の無償化を実施するかどうかは置いておいて、提案を受けて実施す</p>

	<p>るということになれば、移住・定住促進センターの中で、よく情報発信をするということを明文化し、しっかり行うことが必要なことかと思う。</p>
委員	<p>渋川市は保育料無償化も給食費無料化も両方やっけていてすごいと思うが、費用対効果が見えないとすると、逆に無駄遣いだよねという意見はあるのか。</p>
事務局 (担当係長)	<p>間違いなく利用者の経済的負担は減っているなので、子育て支援策としては十分な政策なのだと思う。ただ、人口減少対策の視点で見ると、思ったような効果が得られていないということだと思う。</p>
委員	<p>今までは、桐生の若い人達が「桐生は住みづらい」と、どんどん太田市、みどり市、伊勢崎市に出て行ったのだと思う。逆に言うと、近隣に住んでいる人たちも含めて考えると、桐生が子育て支援に力を入れていたりしたら、桐生も選択肢に入ってくる。桐生は場所的には選択肢に入れられることが多い所だと思う。藪塚とか、笠懸とかに住むことを考える人たちはすごく多いと思うので、その人たちが、桐生市が何かといいよねと。保育園も充実しているし、しかも無料であるとなったら、そこの中で優位性を保てるものがあると、コンシェルジュが案内をするときにセールスポイントになると思う。</p>
事務局 (課長)	<p>私が子育て支援課長だったということもあり、色々な所から話を聞いていたが、無償化というのは、実際人口が増えていないという実態があつて、あくまで子育て支援策の1つで、直接移住・定住には結びついていない。委員がおっしゃったように、十分周知できているかというところが1番大きいのかなと思う。確かに桐生市は無償化を実施していないが、虐待の対応では東部管内で1番進んでいる。そのことも全然知られていない。</p> <p>無償化の問題で、もう1つ大きいのは、保育料無償化、給食費無償化、18歳までの子どもの医療費無償化など、確かに全てできれば子育て世代の経済的負担は減り、子どもの出生を増やすという政策として有りなのだと思うが、出産祝い金などにしても少額では仕方ないというのがある。1つの施策で子どもを産んでもらえるようになるのかという問題があつて、そこは国がある程度リードすべきであり、自治体がお金をどんどんつぎ込むとパンクすることが考えられ、無償化は微妙なところかなと考える。</p>
委員	<p>先ほどの3つの無償化の中で、全部やればいいのかもしいけど、どれかにつぎ込むとしたら、子どもが生まれてどこに住もうかとなったときに、3歳児未満の保育料無償化が1番効果的だと思う。高校生までの医療費無償化は、すごく有難いことだけど、それがあるから桐生に住むという人はあんまりいないと思う。私は、人口を増やすことを考えたら保育料の無償化である。</p>
委員長	<p>給食費に関してだが、何年前に役員をやっていた中で、保護者の人たちと給食費について話す機会があつた。無償化してもらえたら助かる。しかし、今のままの歳入がずっと続けばいいけれども、歳入が減ったときに、家計だとまず何</p>

	<p>を削るかと考えたときに、食費を考え始める。となったときに、給食の質を維持してもらえるのか不安がよぎる。だとしたら、今でも準用保護という制度で、ひとり親世帯や低所得世帯は給食費が実質無料になっている中で、払えるものは払うので、その分を別のことで子どもに使ってほしいという保護者がほとんどだったのは少しびっくりしたが、そういう意識もある中で、無償化はもちろんやってもらえたら有難いに越したことはないが、現実を見たらという部分で、委員がおっしゃるように、もしどれか1つ上げるとしたら、人口減少対策としては3歳未満児の無償化がいいのかなと思う。</p>
事務局 (課長)	<p>3歳未満児の保育料無償化という部分で考えていただきたい部分があるが、なぜ先に3歳以上が無償化になったかというところ、3歳以上だと幼稚園入るところで、幼稚園は共働きでないと入れないのに対し、3歳以上は幼稚園も入り、9割以上の子どもが通うことになる。なので、多くの人可以享受することができる。3歳未満児の場合は、現在育休制度が拡大してきて、幼稚園に行かせなくても自宅で看ているという人も結構いる。そこで、無償化の利益を享受できる人が限られてくるといっても考慮いただけると有難い。</p>
委員	<p>公務員の育休は3歳までか。</p>
事務局 (担当係長)	<p>そうである。</p>
委員	<p>公務員の方たちはゆっくり休めるからいいが、一般の企業に勤めているような方たちはすぐに育休が終わって仕事しなければならない。そうすると、私の職場は託児施設があるからいいが、それもないと、仕事をどうするのかと考えなければならない。そういう方たちが実際にいる。なので、誰もが享受できることではないけれども、逆に享受する必要のない方たちではなくて、本当に困っている人たちには実はすごく有難いのではないかなと思う。</p>
委員	<p>私は子育てについては何が良いかあまりよく分からないが、保育料無償化にしても、給食費無償化にしても、全て結局予算の問題となってくる。でもその予算を作っていないだけである。私がこのワーキンググループに入らせてもらったのは、そこである。やりたいことは皆言えるが、それを実現させるためにはどうすればいいかということころまでは掘り下げないと思う。だけどそこが大事であって、さっきのきりゆう暮らし応援事業もそうだが、初めはそんなに多くの予算を使ったら赤字になるので大変だと言っていたのが、5年で元を取るという話になって継続するということになった。今の話もそうだが、例えば、1億7,000～8,000万かかります。給食費は3億です。合わせて5億弱かかります。じゃあそれをどこから稼げばいい話である。</p> <p>先ほど委員長が話した給食費の話では、給食のレベルが下がってそれはすごく危険だということになったら、親は自分が食べられなくても子どもを食べさせなくてはいけないわけである。そうしたら、税金を上げるとまでは言わないが、稼げるところがあるわけである。私は、このワーキンググループで、収支両方の面</p>

	<p>でやらないと、いくらこういう話をしても駄目だと思う。</p> <p>桐生市の税金は、人がいなかったら増えない。そこで入ってくるのを増やしましょうというのがこのワーキンググループである。だが、入ってくる時に使わなければいけないから、鶏が先か卵が先かの話になってしまう。それをこのワーキンググループで考えて、そういうところで税収を上げるようにして行って、上がった税収は子どもたちに全部使います。桐生市は子どもたちに手厚くしているまちですよとしていくことが大事だと思う。</p>
事務局 (課長)	<p>おっしゃることはよく分かる。どんな対策をとってもお金はかかる。そうすると制約がでてしまうので、歳入とパッケージがいいということである。ただ、そういう考え方もあるが、ある程度純粋に対策ということを今回は考えていただく場であり、それでもいいのかなとは思っている。</p> <p>ただ、お金の問題は当然出てくるが、歳入を上げるところまで議論するには時間が足りないと思う。</p>
委員	<p>具体的に入ってくるお金をとっているのではなくて、そういうところまで考えて作らないと、1番のもそうだが、先ほどなぜ私が心配したかという、例えば、やろうと思ったことが10項目出ました。これをどうしてもやってくださいとワーキンググループで決めました。だけど、この2つは予算がなくてできなくなってしまったとなったら、この2つを推していた人は、私の意見は通らなくて、結局出来上がったものが変な形になっちゃったよねってなる可能性がある。市からしたら、予算がなかったからできなかったと言えば済んでしまう。それだと、せっかくこれだけ時間をかけて議論しても意味がなくなってしまうということを行っている。</p>
事務局 (課長)	<p>まず前提として、当然提言いただいたことは重く受け止める。それがざっくりした内容だと、委員がおっしゃるとおり違うものになってしまう。予算だけではなくて他の政策との整合性もあるので、できないこともある可能性が当然ある。ただ、一番大きな趣旨や根幹にあるところは、当然やる以上は外さないようにする必要があると思う。どうしても濃淡の部分はある程度ご承知いただきたい。なるべく予算がないからできないということがないように努力してまいりたい。皆様が良いものができたなと思ってもらえる形にするのが我々の仕事だと思っている。そのようにつもりでいるが、なかなか今の時点では何ともお話ししづらいところである。</p>
委員長	<p>市の歳入の割合を見ると、やっぱり市民税や固定資産税の割合がどうしても高い。人がどれだけいるかでその市の収入が決まってくるというところがあるがゆえに、市民を増やしたいというところでの一点突破の施策というのがこのワーキンググループの課題の1つ。その中で、委員がおっしゃるように他でどうにかして市で使えるお金を稼いでいく方法をちゃんと考えなくてはいけないというのはすごく大事な点になっていくと思う。</p>

事務局 (課長)	<p>今まで再三、有難いことに無償化のことでご議論いただいたが、今、こちらできるとも答えられない中で、今回は提言の中で付帯意見として入れるかどうかの議論をしていただけると有難い。</p> <p>また、無償化について色々なところで話題になっている中で、皆様のご意見を拝聴できて非常に勉強になった。</p>
委員長	3歳未満児の保育料無償化を付帯意見として載せるかどうか。
委員	通るかどうかわりにしても、載せてもいいのではないかと。こういう意見が強く出ていることがその中に入るだけでも。給食費とかそこまでいってしまうと大変だと思うが。
委員	家を建てるタイミングを考えたりすると、3歳未満児の保育料無償化が有効なのかなと。
委員	3歳未満児の親が働くことで歳入が増える。預けられるから働くことができる。
委員	あとは転入してもらって増える。
委員	付帯意見で入れていただければいいのかなと。
委員	お母さんたちにとっては嬉しいと思う。
委員	行政の人と実際に対象になる人の声は違うかもしれない。
委員	満足度は上がっているかもしれない。
委員	<p>既存の取組だったら、今2人目を半額にしているが無償にするとか、もちろん1人目から無償ができたならもちろんいいし、今後の移住・定住の中でこういう動きが出てきたというのはすごく分かりやすいし誰も反対する人はいないと思う。議論がこれから進んでいく中で、全くなしになるくらいだったら、現在の2人目半額、3人目無償をもう少し改善したら、それはそれで売りになる。例えば地元の人が、1人子どもがいて、もう1人産むとなったらそれは立派な人口減少対策なので、分かりやすいかなと思った。</p> <p>男性は子育てにお金がかかっているということが正直あまりよく分かっていない。委員の保育料無償化の意見を聞いて素晴らしい事業だと思ったくらいで、女性の意見がすごく大事だと思う。2人目・3人目を産むことにハードルを感じている人もいると思うので、保育料無償化ができたならすごくいいと思うが、これで意見を丸ごと落とされたらすごく勿体ないと思うので、もし付帯意見に載せるならインパクトがあった方がいいので、これを見て誰かが声を上げてくれるためにも、分かりやすいと思う。移住・定住の窓口でも、先ほど話があったきりゅう</p>

	暮らし応援事業と併せてアピールできるので、いいなと思う。
委員長	私も、3人目は無料で2人目は半額だが、2人目からもう少し何かあると、2人目からのハードルを下げるような何かがあるといいなと思っていた。
委員	少しずつ改善して行って、期待を持たせるようにするといい。 また、私は情報に疎くて全然知らなかったが、黒保根町では子どもが生まれるとお金がもらえるらしい。妻がそのことに感動して、黒保根で良かったと言っていた。
委員	この前テレビで、子どもが生まれたらベビーベッドをずっと無償で貸してくれて、大きくなるとベビーカーやチャイルドシートを補助してくれるまちがあった。
委員	チャイルドシートは今無償で貸していないのか。
事務局 (課長)	交通安全協会で貸出しをしていた。 以前の会議で、出産祝い金の話になった際に、委員がちょっとした額ではなく大きな額でないと意味がないということをおっしゃっていたが、出産時に5万円くらいのお金を出す自治体は結構あるが、それは人口減少対策というよりも祝意を伝えるという意味合いの方が強い。
委員	さっき委員が、母親が働くことで税収も増えるとおっしゃったが、そのとおりで循環につながる。里帰り出産で帰ってきているお母さんと話をして、その方は働きたいし、職場からも早く戻ってきてほしいと言われているが、薬剤師は給料が高く保育料が高いので、保育料を支払うために働くようなものだと言っていた。別の地域で保育料が安くなるなら引越しを考えるとと言っていた。働く側にも職場側にも双方にとって良いことだと思うので、3つの中の無償化で選ぶとすると、保育料の無償化1番が効果的あると思うし、付帯意見に入れてもいいのかなと思う。最終的には議会で話し合われて決まることだと思うが、こういう意見が上がってきているということを示すためにも、付帯意見に入れることはいいと思う。
委員長	付帯意見に載せるということでよろしいか。
	一同同意
委員長	では、3歳未満児の保育料無償化は、付帯意見に載せることといたしたい。
委員	渋川市の様々な支援制度が載ったパンフレットがすごく見やすいのだが、桐生市版でこういうものはないのか。

事務局 (担当係長)	ない。委員のおっしゃるとおり、このようなものがあるとすぐ分かる。
委員	ワンストップ窓口でこういうものもコーディネートできる場所でない。
委員	「これだけお得」と下に書いてあるが、給食料は事業費 3 億円に対して 1 人当たり 50 万円なので、保育料の方がインパクトはある。
委員	きりゅう暮らし応援事業の 200 万円がどこよりも高いのならば、1 位と言えはいい。魅せ方が大事。ワンストップ窓口ともリンクさせて、魅せ方で何とかなる気がする。情報が柔らかくなって伝わりやすくなれば、情報を伝えやすくなるというよりも魅せる情報自体を柔らかくするというのが、窓口においてはいいのかなと思う。
委員長	先程の事務局の話で、プレジデントオンラインで桐生市が 1 位になっていたということはビックリしたが、確かにそうだなと思った。
事務局 (担当係長)	金額だけ見れば、200 万円が極端に高いという話に持っていける要素はあると思う。
委員	事実だけ集めて、某企業の CM みたいに 1 位を並べるとか、そういうことをしても面白いと思う。
委員長	<p>それでは、3 歳未満児の保育料無償化は付帯意見に載せることとする。</p> <p>あとは、「まちなかにおける生活の核となる施設の整備」、「公共施設の利活用」、「小学校や学童でのいじめ、いじわるの解消（特に学童）」を付帯意見としてどうかというような話が出ていたと思うが、いかがか。</p> <p>「まちなかにおける生活の核となる施設の整備」と「公共施設の利活用」は一括していいのではないかという話は出ていたと思うが、付帯意見に載せるとしたらどのように載せるか、それとも付帯意見に載せなくてもいいのか、色々ご意見をいただけたらと思う。</p>
委員	これまで支出することを中心に話してきたが、収入のこともこのワーキンググループで話したということを示すためにも、これが主軸になるわけではないので、一括で収まるなら一括でいいと思うが、中身は多少変更があるかもしれないが、入れてもらった方がいいと思う。
事務局 (課長)	まとめとしては、公共施設の利活用を素早く進めてほしいということだったと思うが、今までの委員のご発言を整理すると、公共施設や用地を使って収入を上げることを考えてほしいという趣旨の方が寄り合ってくるのかなと思ったが、いかがか。
委員	結果的にはそうなると思う。

事務局 (担当係長)	一例として、スーパーなどを整備して利便性を上げていくということか。
委員	分かりやすく言うと、できるかどうかは別として、南中の跡地を民間に貸与し、1,000万円の賃料を取る。そういうことができる場所があるので、そういう所を利活用してもらった方がいい。あとは、人口減少対策として、今空いている学校などについて、色々あるのだと思うが、早く手を打ってもらいたい。
委員長	公共施設や用地を売ったり貸したりすることで収入を上げるような、そういう視点を持って活用の方法を考えてほしいというような意味での付帯意見ということではよろしいか。
委員	そうであるが、収入を得るだけの話にしてしまうとそれが一人歩きしてしまうので、上がったものをここに使うので収入を得るということである。例えば、これから子どもたちのためにお金を使うためにここを有効利用して、収入を上げて、上がった収入はそこに使いますよというような流れを作ってもらえると、支援する人達も賛成してくれると思う。
事務局 (課長)	文頭に、「人口減少対策に要する費用を捻出するために」というような文を付けた方がいいか。
委員	その方が分かりやすいし通りやすい気がする。 じゃないと、他に専門の委員会等があると思うので、ワーキンググループとしては、目的があるので、その目的に使うためにやるという方がいいと思う。
委員長	その方が、すんなり筋が通ると思うので、その文頭を付けた方がいいと私も思う。収入を上げてもらい、上がった収入を人口減少対策に充ててもらいたいというような切り口での付帯意見として載せるか。
委員	統廃合された学校は、実は跡利用方針が前から決まっているが、具体的に話が進まないで止まってしまっている。そういうものに関して、是非見直して欲しい。昔、西中を博物館や起業の拠点やものづくり学校などにしたらどうかという話が出た時に、西中は学校機関へ貸与・売却ということが決まっていたが、その方針を覆すような合理的な理由がなければ見直しができないというような市の回答だった。そういうのが今でもずっと続いているので、一度決まったことであっても、必要があれば見直していただきたい。これは付帯意見ではなく要望だが、お願いしたい。
委員	第3回の会議時に、委員がものづくり学校の話をしてしたが、北幼稚園が空いている。市役所の窓口に行っても相手にされないことも結構ある。それが今度は企画課が窓口になって、企画課に相談したら全て導いてくれたら、そういう流れを作ってもらえたら、民間が相談しやすくなる。今は閉じてしまっている状態である。企画課がいいのかは分からないが、そういう窓口を作ってもらって、ど

	<p>んどん良い提案があれば乗りますよというふうにしてもらえると有難い。</p>
<p>事務局 (課長)</p>	<p>第3回で出たその話は、賃料で賄っていくという話の中で、あの大きさの学校を改修して賃料で賄うには、全部埋めないと回らないので、あるとすれば幼稚園レベルだという話はさせていただいた。いずれにしても、そういうご提案があるならば当然、そういう施設をサウンディング調査したりすることもあるので、その中で検討していくことは当然ある。</p>
<p>委員</p>	<p>西中の話は色々あるので置いておいて、北幼稚園などの話は、例えば、人口減少対策の話をするならば、無償にしたっていいくらいである。私が行っているのは、賃料で収入を上げると言っているが、0の収入だとしても最終的にプラスになれば、固定資産税や市民税が入ってくるのであれば、別に賃料を取る必要はない。</p>
<p>事務局 (課長)</p>	<p>トータルのご提案をいただく中では、私が言いたかったのは、投資したお金がペイできるのかということと単年とかで見るとは長目を見て、当然それが市の方針に合致するかどうかという問題だと思う。第3回の話では、場所としては幼稚園レベルがちょうどいいのではと思ったが、北幼稚園は現在庁舎建設の間は倉庫として使うことが決まっていた。</p>
<p>委員</p>	<p>今からプランを作っておいて、3年後に庁舎が完成するからちょうどいい。</p>
<p>事務局 (課長)</p>	<p>今の北幼稚園の現状を話すと、暫定利用方針で倉庫としての利用が決まっているが、本格利用は決まっておらず、今後検討することになっているので、もし提案があれば相談に乗る。</p>
<p>委員</p>	<p>窓口が今までなかったのが、窓口ができるだけでも進歩しているわけである。そういうところだと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>今思ったのは、ワンストップ窓口を作るに当たって場所を探さなければいけないので、例えば、移住センターにプラスでクラフト系のものづくりの工房が同じ場所にあって、その方たちも移住者という括りになるから、その窓口に行くだけで、実際にそこで工房をやって仕事をしている人たちの話を直に聞きに行けるみたいな、合体しているような形でもいいのではないかと思った。そうすると賃料の面とかそういうところも意外とまるっと収まるのではないかと思った。</p>
<p>事務局 (課長)</p>	<p>提言書が提出された後に検討していくことになるので、現時点では具体的な場所の想定まではお話しできないので、そこはご理解いただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>一意見として聞いておいていただければいい。</p>

委員長	今後学校の適正配置がどんどん進み、幼稚園も統廃合のスケジュールが決まった中で、空く校舎・園舎の使い道はしっかり柔軟に考えていていただきたい。付帯意見とは別になるかもしれないが。
委員	資料中の第5回における委員意見で「市が公共用地の利活用を素早く積極的に進めてほしい」とあるので、この文に含められている。あとは前段に「人口減少対策に充てるための」と入れれば。
事務局 (課長)	人口減少対策ということで、委員の歳入の面からも見てほしいという意思を汲んで、事務局の方で文案を作らせていただくということによろしいか。
委員	次回確認できるのか。
事務局 (課長)	本日は何を提言書に載せるかという主題を決めて、次回提言書の形で提示したい。次回で最後と考えている。
委員長	では、公共施設の利活用は、付帯意見に載せ、次回原案を示してもらおうということによろしいか。
	一同同意
委員長	あとは、「6 桐生を好きな子どもを育てる取組の実施」と「7 小学校や学童でのいじめ、いじわるの解消」だが、すごく大事な意見ではあり、これがあるからこそ桐生の子育て支援の充実が図られているのだが、人口減少対策の視点だと、提言書の付帯意見として付けるのには少し色が違う印象があるが、いかがか。
委員	これをやったから人口が増えるとか減るとかではないので、どこかで機会があればまた出していただきたい。
委員長	議事録は市長や副市長も目を通してくださっているので、この中で話が出たことはとても良かったと思う。 では、この2つについては、付帯意見に含めないということによろしいか。
	一同同意
委員長	「1 移住・定住に関するワンストップ窓口の設置、ポータルサイトの開設」に「2 きりゅう暮らし応援事業」を組み込んだものを主軸に、「3 まちなかにおける生活の核となる施設の整備」、「4 公共施設の利活用」をまとめたものと「5 3歳未満児の保育料無償化」を付帯意見にするということによろしいか。
	一同同意
委員長	次回の会議が最後となる予定であり、そこで総合戦略推進委員会へ提出する提言書を決定したい。 それでは、本日の議事はこれで終わったので、議長の任を解かせていただく。

5 その他

- ・事務局から、次回の開催日程について事務連絡。

6 閉 会 [終了：午後3時20分]